

9月9日は救急の日 尊い命を守るためにできること

皆さんは9月9日が何の日かご存じですか。
9（きゅう）と9（きゅう）で「きゅうきゅうの日」、すなわち「救急の日」です。
私たちは、いつ、どこで、突然のケガや病気におそわれるか予測が付きません。
あなたの家族や職場などで、緊急事態が発生し何らかの原因で人が倒れてしまったら、
あなたならどうしますか？
尊い命を守るために…

応急手当の必要性

突然、目の前にいる人が倒れたり、交通事故などでケガをしている人を見かけた時には、119番通報で救急自動車を呼びますが、救急自動車が119番通報を受けてから、救急現場へ到着するまでに要する時間は、平成21年中の全国平均で7.9分となっています。

カーラーの救命曲線（図1）によれば、心臓停止の傷病者を3分間放置しただけで、死亡確率は約50%といわれており、傷病者を救命するには、早い通報・早い応急手当・早い救命処置・医療機関での早い救急医療という救命のリレーが不可欠となります。

特に救急自動車が到着するまでの「空白」の時間に、救急現場に居合わせた人（バイスタンダー）が勇気をもって応急手当を実施することが、救える命を救うために重要なステップとなります。（図2）

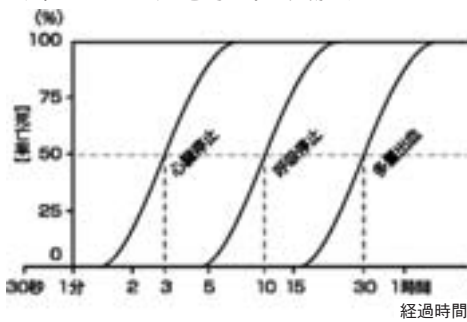


図1 カーラーの救命曲線



早い119番通報
おちついて、はっきりと119番に通報する

早い応急処置
救急車到着前の早い心肺蘇生と早い除細動

早い救急処置
救急救命士等を行う高度な救急処置

早い医療処置
医療機関における医療処置

図2 救命のリレー

バイスタンダーとは

「偶然に通り合わせた人」「すぐ側にいる人」のことを言い、生命の危険に陥った人に救いの手を差し伸べる人を指しています。

応急手当の救命効果

応急手当の救命効果は、救急隊が到着した時に一般市民による応急処置が実施された場合の生存者数の割合（13.8%）と実施されていなかった場合の生存者数の割合（9.0%）を比べると、応急手当が実施されていた場合の方が、4.8ポイント（約1.5倍）救命効果が高くなっています。（図3）

一般市民により心肺機能停止の時点が目撃された21,112人の症例

一般市民による応急手当	有の場合	無の場合
	10,834人	10,278人
そのうち、1カ月後の生存者数	1,495人 (13.8%)	922人 (9.0%)

図3 応急手当の救命効果（平成21年中）

応急手当を身につけましょう

消防署和寒支署では、一人でも多くの人に応急手当の知識と技術が広く普及するよう、各種団体、サークルなどの申し込みにより、講習会を開催しています。

町内のどんな団体でも開催することができ、内容についても希望の内容で開催できますので、お気軽に消防までご連絡ください。

いざという時に大切な方の命を救うためにも、応急手当講習を受講しましょう。

救急講習の内容

一般救命講習	
講習時間	3時間未満
講習内容	心肺蘇生法など (内容については、ご要望に応じます)
普通救命講習（修了証を交付）	
講習時間	3時間
講習内容	心肺蘇生法・止血法 (AEDなどを使用した蘇生などをおこないます)

詳しくは消防署和寒支署 救急・救助係 (32 - 2119) まで